

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

晴れた日に外へ出ると、自分の影がある。朝の影は長く、細く、遠くまでのびている。ところが昼になると、影は足もとに縮こまり、夕方にはまた反対の側へ長くのびていく。影の長さは、一日の中で大きく変わる。

なぜ変わるのか。影を作っているのは太陽の光だ。太陽が低い位置にあるとき、光は横からなめに差しこむ。すると、体にさえぎられた光の届かない場所は、地面の上で遠くまでのびる。太陽が高い位置にあるときは、光はほぼ真上から差す。さえぎられる場所は、足もとの小さな範囲だけになる。つまり、影の長さは、太陽の高さで決まる。

このことは、昔の人にとって、ただの面白い現象ではなかった。時計がなかった時代、人々は地面に棒を立て、その影の向きと長さで、およその時刻を知った。影がいちばん短くなるときが、太陽がいちばん高いとき、すなわち昼である。棒一本と地面があれば、それは時計になった。

影は、季節も教えてくれる。同じ昼でも、夏の影は短く、冬の影は長い。夏は太陽が空の高いところを通り、冬は低いところを通るからだ。昔の人は、昼の影の長さを毎日ばかりで、一年の中でいちばん影が長い日と短い日を見つけ、季節のめぐりをつかんだ。カレンダーのない時代、影は暦でもあった。私たちは今、時刻も季節も、画面を見れば分かる。だが、影が語っていることは、昔と少しも変わっていない。足もとの影が短くなれば昼が近く、長くなれば日が傾いている。ときには画面から目を上げて、自分の影を見てみるとよい。そこには、太陽と地球の関係が、そのまま映っている。

（この問題のための書き下ろし）

問一 影の長さは何によって決まると筆者は述べていますか。本文中から五字で抜き出さない。

太陽の高さ

問二 「朝の影は長く、細く、遠くまでのびている」とありますが、その理由として最も適切なものを、次のア～エから一つ選びなさい。

- ア 朝は太陽の光が弱く、影がうすくなるから。
- イ 朝は太陽が低い位置にあり、光が横からなめに差しこむから。
- ウ 朝は空気が冷たく、光がまっすぐ進まないから。
- エ 朝は人の体が縮んでいて、影も細くなるから。

イ

問三 時計がなかった時代、人々はどうやっておよその時刻を知りましたか。「～で」につながるように、本文中から二十字以内で抜き出さない。

地面に棒を立て、その影の向きと長さ

問四 「影は暦でもあった」とありますが、昔の人はどのようにして影から季節のめぐりをつかんだのですか。四十五字以内で説明しなさい。

だ	影	昼
。	が	の
	長	影
	い	の
	日	長
	と	さ
	短	を
	い	毎
	日	日
	を	は
	見	かり
	つけ	、
	る	一
	こ	年
	と	で
	で	い
	つ	ち
	か	ば
	ん	ん

問五 最後の段落で筆者が言いたいこととして最も適切なものを、次のア～エから一つ選びなさい。

- ア 画面で時刻を知るの間違ひなので、影で時刻を知るべきだ。
- イ 昔の人のほうが、今の人よりも科学の知識が豊かだった。
- ウ 影が語れることは昔と変わらず、そこには太陽と地球の関係が映っているので、時には影を見てみるとよい。
- エ 影の長さは今では意味を持たないので、忘れてしまってもよい。

ウ

【中I】国語 文章問題 説明文 4 答えと解説

問一（二十点） 答え：太陽の高さ

解説：第二段落の最後「つまり、影の長さは、太陽の高さで決まる」が根拠。「つまり」の後に段落のまとめが来る。

問二（二十点） 答え：イ

解説：第二段落の「太陽が低い位置にあるとき、光は横からななめに差しこむ。すると～地面の上で遠くまでのびる」が根拠。ア・ウ・エは本文にない。

問三（二十点） 答え：地面に棒を立て、その影の向きと長さ

解説：第三段落の「人々は地面に棒を立て、その影の向きと長さで、おおよその時刻を知った」が根拠。

問四（二十点） 答えの例：昼の影の長さを毎日ばかり、一年でいちばん影が長い日と短い日を見つけることでつかんだ。

解説：第四段落の「昼の影の長さを毎日ばかり、一年の中でいちばん影が長い日と短い日を見つけ、季節のめぐりをつかんだ」が根拠。夏は影が短く冬は長い、という前の文も理由として書けていればよい。

採点のポイント：① 昼の影の長さを毎日ばかり ② いちばん長い日と短い日を見つけた（二つそろって満点、一つなら半分）

問五（二十点） 答え：ウ

解説：「影が語っていることは、昔と少しも変わっていない」「ときには画面から目を上げて～」が根拠。アは「間違い」とまでは言っていない。